

# 金型のショット数管理

## お困り事



- ショット数を管理して適切なタイミングでメンテナンスを行いたい、が、台帳に手書きで記載しているため作業が煩雑になり、誤りも発生している。
- 台帳の記録をExcelに入力しているが、とても手間がかかる。
- 管理者の経験・勘で金型を交換するタイミングを決めている。
- 正確なショット数データが共有できていない。
- 記録したデータはあるが運用上活用できておらず金型をメンテナンスするタイミングを逃している。

## Excelアドイン、VBA、ディスプレイタグを使ってラクラク管理しませんか？

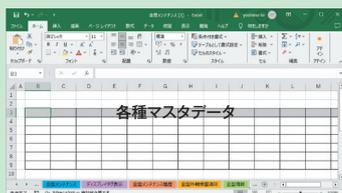
- 金型毎にショット数を記録して管理
- メンテナンス用のショット数に近づくと警告を表示
- メンテナンスが必要な金型と、まだ使える金型を見分ける事が可能
- メンテナンス履歴データを蓄積する事で維持コストの適正化を実現
- 手作業で行っていた台帳への記録をシステム化することで業務効率を改善



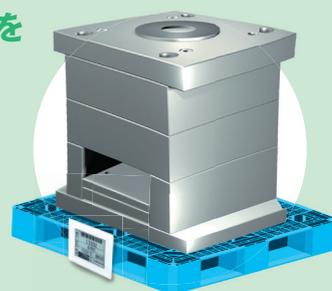
## 準備

### A Excelで各種マスターデータを作成

(マスター例：ディスプレイタグ表示/金型マスタ/金型メンテナンス情報/メンテナンス履歴/検査項目/担当者)

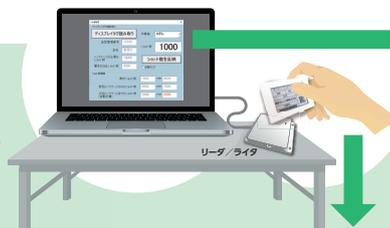


### B ディスプレイタグを校正対象物に取り付け



## 運用イメージ

- ① 金型に取付けてあるディスプレイタグを外し、リーダ/ライタ上に置く。
- ② リーダ/ライタがIDを読み取り、マスタ上で紐づいている金型詳細情報をPC画面に表示。
- ③ 表示された内容を確認し問題が無ければショット数を入力。マスタ情報を更新し、ディスプレイタグの表示も更新される。入力履歴も自動保存。
- ④ 作業後にディスプレイタグを金型に取付けて終了。



ディスプレイタグ表示イメージ



Excel VBA (PC画面イメージ)